

地域 みんなでアカモズを守る！

～市民科学と保全生態学への挑戦～

青木大輔¹・赤松あかり¹・松宮裕秋²・原星一²

¹北海道大学・院理、²信州大学 OB



課題：アカモズを守るための活動

アカモズ(*Lanius cristatus superciliosus*)は絶滅が心配される、日本のみで繁殖する夏鳥です。かつては身近な鳥でしたが、過去30年間で全国的に激減しました。現在は数少ない繁殖地に**200つがい**もいません。

日本にしかない貴重なアカモズの保全には、**個体の数と分布を正確に把握し、繁殖成功に必要な環境条件を調べる**ことが重要です。

→**個体数と繁殖生態のモニタリングが必要です。**



日本のアカモズ。日本の亜種特有の遺伝子を持つことも分かりました。

困難：調査の限界

私たちは長野県で10年間アカモズの調査を継続してきました。しかし、繁殖地が県内でちらばっているため、私たちだけでは個体や巣を把握できる範囲に限界がありました。



リンゴの木でひっそりと繁殖します。

着想：農家の方々との協力

長野県の果樹園地帯は重要繁殖地の一つです。アカモズはリンゴなどの果樹に巣を造り雛を育てます。アカモズの希少性や果樹の害虫を食べる生態を通して、保全への重要性が一部の地域で浸透しています。農家さんが農作業中に見つけた個体や巣場所の情報提供も増えました。

→**農作業中のアカモズ情報を集約するシステムを作れば、従来より効率的にアカモズのデータを収集できる！**

一方、これまで調査が手薄だった地域ではアカモズの存在があまり知られていません。果物の害鳥の巣と間違えられ、農家さんに誤って巣を落とされることがあります。

→**調査範囲を拡大できればより多くの農家の方々へ啓発活動できる！
農家の方々との市民科学による協力でアカモズ保全を促進！**

目的：アカモズ保全のための市民科学の実施

- ① 農家の方々から個体・繁殖情報を収集するための市民科学システムの構築
- ② アカモズ調査地域の拡大・アカモズ普及活動

実施内容 @ 長野県内の果樹園

① 市民科学の実施が可能な地域

- ・ アカモズ分布・繁殖情報を集約する仕組みの構築（例 情報web投稿フォームや紙アンケート）
- ・ 繁殖に悪影響にならない観察・データ収集方法についての勉強会の実施
- ・ 農業と鳥類の共存について考えてもらう講演会の実施

② アカモズ調査が手薄だった地域

- ・ 農家の方々との対話
- ・ アカモズに関するパンフレットの配布



報告!

集計&活用!

実現可能性・展望

- ・ 農家や地域の方々から直々に「アカモズを地域で守りたい」とご要望頂きました。2年連続で開催した地域の講演会を通して、保全活動にご協力いただける方も増えています。
- ・ 巣が落とされる可能性を減らすことで繁殖成功率の上昇が期待されます。

成果は今後の持続的なアカモズの保全システムに役立てられます。実施内容は講演会や学会で報告します。

この取り組みが**農業と鳥類の保全の両立への第一歩**になればと考えています。ご支援、何卒よろしくお願い申し上げます。



調査を通して保全の重要性を地域の方々に伝えています。

必要経費

頂いた支援金は、市民科学システム構築費、各生息地でのアカモズ調査や普及活動での交通費、勉強会や講演会の費用に充てられます。